

令和7年度(2025年度)

病害虫発生予察情報

第21号

9月月報

北海道病害虫防除所 令和7年(2025年)10月15日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/>

Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

I. 気象概況 札幌管区气象台発表 北海道地方気象速報

—かなりの高温・かなりの多照となった一方、たびたび大雨があつて多雨—

9月は、偏西風が平年より北を流れ、暖かい空気に覆われやすく、北からの寒気の影響は受けにくかった。このため、北海道地方の気温はかなり高かった。高気圧の張り出しの中で晴れた日が多く、また冷たく湿った空気の影響を受けにくかったため、日照時間は北海道地方と太平洋側でかなり多く、日本海側とオホーツク海側で多かった。中旬以降は低気圧が発達しながら北海道付近を通過し、広い範囲で大雨となった日があったため、北海道地方の降水量は多かった。

上旬：低気圧の影響を受ける日が少なかったが、1日から3日にかけては低気圧や前線の影響で大雨となった所があった。このため、北海道地方の降水量は平年並だった。気温は、暖かい空気に覆われやすかったため、日本海側と太平洋側でかなり高く、オホーツク海側で高かった。

中旬：晴れた日が多く暖かい空気に覆われやすく、また低気圧や前線に向かって暖かい空気が流れ込む日もあったため、北海道地方の気温はかなり高く、日照時間はかなり多かった。13日から14日にかけてと20日から21日にかけては、低気圧が発達しながら北海道付近を通過し、広い範囲で大雨となったため、降水量は多かった。13日には白老町森野で、1976年の統計開始以降、通年の第1位となる日降水量380.0mmを観測した。

下旬：高気圧に覆われて晴れた日が多く、暖かい空気に覆われやすかったため、北海道地方の気温はかなり高く、日照時間はかなり多かった。北海道地方の旬平均気温の平年差は、1946年の統計開始以降9月下旬として高い方から第2位の記録となった。20日から21日にかけては低気圧が発達しながら北海道付近を通過したため、線状降水帯が発生するなど太平洋側を中心に大雨となり、暴風となった所もあった。21日には、厚真で88.5mm、釧路市音別町二俣で75.5mmといずれも1976年の統計開始以降、通年の第1位となる日最大1時間降水量を観測した。平年の降水量が少ないオホーツク海側では、降水量が多かった。

気候表(気温は平年差(°C)、降水量・日照時間は比(%))を示す

	気温偏差°C	階級	降水比%	階級	日照比%	階級
北海道22地点平均	+2.2	か高	124	多	123	か多
日本海側10地点平均	+2.1	か高	122	多	117	多
オホーツク海側4地点平均	+2.4	か高	116	多	121	多
太平洋側8地点平均	+2.2	か高	131	多	132	か多

注) 階級分布図の気温・降水量・日照時間は、概ね「高(多)」、「並」、「低(少)」の3段階で表示します。各階級の幅は、平年値の作成期間(1991~2020の30年間)における各階級の出現率が1:1:1となるように決めてあります。なお、平年値作成期間内の上位、下位10%の範囲に入る場合は「か高(多)」、「か低(少)」(か→かなり)で表します。

II. 病害虫発生概況

注) 本資料における表中の0の表記について

0のみの場合、調査時に発生がなかったことを示す。0.0あるいは0.00などは、四捨五入により数値が表示されていないことを示す。

A. 水稲

1. いもち病（穂いもち・節いもち） 発生量 並

予察田における穂いもちの発生量は、比布町では平年より多く、岩見沢市では平年並だった。節いもちの発生量は、岩見沢市及び比布町で平年並であった。

予察田における水稲の穂いもち発生状況

地点	品種名	発病穂率(%)				平年数
		9月2半旬		9月4半旬		
		本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	ななつぼし	36.7	42.6	-	-	10
比布町	ななつぼし	77.0	56.9	-	68.7	10
北斗市	きらら397	-	61.3	-	-	10

注1) 各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

注2) - : 倒伏または成熟期を迎えたため調査終了

予察田における水稲の節いもち発生状況

地点	品種名	発病茎率(%)				平年数
		9月2半旬		9月4半旬		
		本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	ななつぼし	16.6	23.8	-	-	10
比布町	ななつぼし	29.9	24.1	-	15.5	10
北斗市	きらら397	-	19.9	-	-	10

注1) 各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

注2) - : 倒伏または成熟期を迎えたため調査終了

2. 紋枯病 発生量 多

予察田における発生量は、岩見沢市で平年より多かった。

予察田における水稲の紋枯病発生状況

地点	品種名	発病茎率(%)				平年数
		9月2半旬		9月4半旬		
		本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	ななつぼし	53.0	19.3	-	21.4	10
北斗市	ななつぼし	-	29.8	-	20.7	10

注1) 各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

注2) - : 倒伏または成熟期を迎えたため調査終了

3. ニカメイガ 発生量 並

長沼町の予察田における被害茎率は、平年並であった。

予察田におけるニカメイガによる被害茎率(%)

長沼町		平年数
本年	平年	
4.4	4.9	10

4. アカヒゲホソミドリカスミカメ 発生量 並 <7月18日付け注意報第6号>

予察灯による成虫誘殺数は、長沼町で平年より多く、比布町で平年より少なかった。

予察田における成虫のすくい取り虫数は、長沼町で平年より多かった。比布町及び北斗市では捕獲されなかった。

アカヒゲホソミドリカスミカメ成虫の予察灯による誘殺数および予察田における水田すくい取り虫数

月・半旬	予察灯誘殺数				水田すくい取り虫数 (20回振り)×5日分換算値)					
	長沼町		比布町		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	130	27.4	16	8.4	0	4.0	0	3.1	0	2.5
2半旬	76	49.0	11	35.6	10.0	1.4	0	2.2	-	3.3
3半旬	-	21.3	1	5.8	-	0.4	0	2.8	-	3.3
4半旬	3	15.4	1	27.1	-	1.1	-	4.0	-	1.3
5半旬	0	1.5	0	1.3	-	0	-	1.3	-	0.8
6半旬	15	2.8	0	0	-	0.3	-	0	-	-
平年数	10		10		10		10		10	

注)一：長沼町予察灯は停電のため欠測

注)一：すくい取りは収穫期を迎えたため調査終了

B. 豆類

1. べと病(大豆) 発生量 少

長沼町の予察ほにおける発生量は、平年より少なかった。

予察ほにおける大豆のべと病発生状況

地点	品種名	発病度				平年数
		9月2半旬		9月4半旬		
		本年	平年	本年	平年	
長沼町	トヨムスメ	7.0	19.2	-	17.6	10

注)一：黄化・枯葉が進んだため調査不能

C. てんさい

1. 褐斑病 発生量 多

<7月1日付け注意報第4号>

予察ほにおける発生量は、長沼町、芽室町及び訓子府町で平年より多かった。

予察ほにおけるてんさいの褐斑病発生状況

地点	品種名 (褐斑病抵抗性)	発病度						平年数
		9月2半旬		9月4半旬		9月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	ライエン(“やや強”)	89.6	62.2	93.2	73.9	96.4	82.5	10
芽室町	あまいぶき(“弱”)	87.6	60.0	88.8	67.0	99.2	78.7	10
	ライエン(“やや強”)	90.8	74.1	97.6	81.6	100	89.2	10
	スタウト(“強”)	86.4	58.4	88.8	66.7	98.8	77.4	10
訓子府町	ライエン(“やや強”)	81.2	56.2	95.2	64.6	99.2	75.4	10

2. ヨトウガ（第2回） 発生量 やや多

予察ほにおけるヨトウガ第2回幼虫による食害程度は、長沼町及び芽室町で平年より高く、訓子府町で平年よりやや高かった。長沼町及び芽室町ではシロオビノメイガとの混発が認められた。

一般ほにおける9月3半旬の巡回調査によると、全73地点のうち、被害株率50%以上となった地点は石狩、後志、胆振、上川、オホーツク、十勝地方の計26地点であった。一部地域で他害虫との混発が認められた。

予察ほにおけるヨトウガの食害程度

月・半旬	食害程度					
	長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	77	66.7	34	43.9	55	36.5
2半旬	84	73.2	42	46.9	56	41.3
3半旬	91	76.8	56	48.1	61	46.2
4半旬	92	79.2	62.5	51.2	63	50.9
5半旬	97	80.9	73	53.2	64	55.2
6半旬	98	83.6	80	54.3	67	58.1
平年数	10		10		10	

巡回調査によるてんさいのヨトウガ被害株率(%)

普及センター	地点数	9月3半旬		普及センター	地点数	9月3半旬			
		本年	前年			本年	前年		
空知	南東部	1	15.0	0	網走	本所	9	48.7	25.0
石狩	本所	3	92.0	23.3		清里	6	61.0	17.3
後志	本所	3	38.0	25.3		網走	2	65.0	11.0
胆振	本所	4	21.0	1.8		美幌	5	19.8	5.0
	東胆振	3	94.7	47.3		遠軽	3	37.3	25.3
上川	富良野	2	21.0	2.0	十勝	本所	7	32.8	7.4
	大雪	2	8.0	1.0		東部	5	12.5	0.8
	士別	1	100.0	9.0		東北部	4	18.0	26.3
	名寄	1	100.0	10.0		北部	3	38.7	13.3
					西部	3	34.7	5.3	
					南部	8	39.7	9.9	

D. あぶらな科野菜

1. モンシロチョウ 発生量 少

予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、長沼町で平年より少なかった。

予察ほのキャベツにおけるモンシロチョウ幼虫の発生状況

月・半旬	長沼町	
	本年	平年
9月1半旬	5	4.8
2半旬	4	4.0
3半旬	3	6.7
4半旬	5	14.9
5半旬	3	19.5
6半旬	2	23.7
平年数	10	

注) 10株あたりの寄生虫数。

2. コナガ 発生量 やや少

フェロモントラップによる成虫誘殺数は、北斗市で平年より多く、比布町及び訓子府町で平年並、長沼町で平年より少なかった。

予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、長沼町で平年より少なかった。

コナガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	長沼町		比布町		北斗市		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	2	17.4	0.8	2.6	2	5.2	0	1.4
2半旬	5	21.4	1	1.2	9	5.0	0	0.3
3半旬	7	13.4	4	1.3	14	5.6	0	0.6
4半旬	8	9.5	5	1.8	15.5	5.2	1	0.1
5半旬	10	11.6	4.3	2.4	13.5	4.0	2	0
6半旬	6	9.5	0.8	3.8	10	3.6	0	0
平年数	10		10		10		10	

注) 設置場所はアブラナ科野菜ほ場近辺。比布町、芽室町はアブラナ科野菜以外のほ場近辺。訓子府町は雑草地。

予察ほのキャベツにおけるコナガ幼虫の発生状況

月・半旬	長沼町	
	本年	平年
9月1半旬	11	7.0
2半旬	10	6.6
3半旬	5	11.0
4半旬	6	8.6
5半旬	0	15.6
6半旬	3	14.4
平年数	10	

注) 10株あたりの寄生虫数。

E. りんご

1. 黒星病 発生量 少

予察園における発生量は、長沼町（無防除）では平年より少なかった。余市町の予察園（慣行防除）では発生が認められなかった。

巡回調査の報告によると、一般園では発生が認められなかった。

予察園におけるりんごの黒星病発生状況(9月6半旬)

地点	品種名	病葉率(%)		発病度		平年数
		本年	平年	本年	平年	
長沼町	相伝ふじ	75.4	91.3	21.3	63.6	8
余市町(慣行防除)	昂林	0	-	-	-	5

注1) -:調査対象外または平年値なし

注2) 余市町データは9月4週目調査

一般園におけるりんごの黒星病巡回調査結果(9月3半旬)

普及センター		地点数	病葉率(%)	
			本年	前年
後志	北後志	2	0	0
胆振	本所	1	0	0
渡島	本所	1	0	0
留萌	南留萌	1	0	0

2. 斑点落葉病 発生量 並

予察園における発生量は、長沼町（無防除）では平年並だった。余市町の予察園（慣行防除）では発生が認められなかった。

一般園における巡回調査の報告によると、胆振、渡島及び留萌地方で発生が認められた。

予察園におけるりんごの斑点落葉病発生状況(9月6半旬)

地点	品種名	病葉率(%)		平均病斑数(個/葉)		平年数
		本年	平年	本年	平年	
長沼町	王林(新梢)	4.3	5.9	0.1	0.1	10
	王林(徒長枝)	2.5	4.4	0.1	0.1	10
余市町(慣行防除)	昂林(徒長枝)	0	-	-	-	5

注1) 長沼町は9月6半旬、余市町は9月5週目のデータ

注2) - : 調査対象外または平年値なし

一般園におけるりんごの斑点落葉病巡回調査結果(9月3半旬)

普及センター		地点数	病葉率(%)	
			本年	前年
後志	北後志	2	0	0
胆振	本所	1	30.7	28.3
渡島	本所	1	44.2	28.4
留萌	南留萌	1	1.0	2.0

3. モモシクイガ 発生量 少

予察園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、余市町B（慣行防除）で平年よりやや少なく、長沼町（無防除）及び余市町A（慣行防除）で平年より少なかった。

一般園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、岩見沢市で平年よりやや多く、札幌市、壮瞥町、七飯町及び旭川市で平年より少なかった。増毛町では誘殺は認められなかった。

予察園におけるモモシクイガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	フェロモントラップ誘殺数					
	長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	9	42.1	5	8.6	12	21.0
2半旬	1	31.7	1.7	5.9	16.3	13.3
3半旬	1	8.7	0	3.0	1.4	7.2
4半旬	0	0.7	0	1.5	0.3	3.3
5半旬	0	0.3	0	1.2	0	0.2
6半旬	0	0	0	0.7	0	0.1
平年数	10		10		10	

注) 余市町A、Bの予察園は慣行防除。

一般園におけるモモシクイガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		壮瞥町		七飯町		旭川市		増毛町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	10.8	4.3	1.7	9.9	1.4	9.8	3.9	14.8	6.6	11.8	0	0.3
2半旬	2.9	3.1	0.3	4.6	1.3	6.5	2.7	6.6	2.4	5.1	0	0.2
3半旬	1.1	0.9	0.6	0.3	1.3	1.8	1.4	2.4	0	0.7	0	0
4半旬	0.4	0.7	0.1	0	0	0.7	0	1.2	0	0.3	0	0
5半旬	0	0.2	0	0	0	0.7	0	0.8	0	0.1	0	0
6半旬	0	0	0	0	0	0.5	0	0.1	0	0	0	0
平年数	10		10		10		10		10		10	

4. ハダニ類 発生量 少

予察園におけるリンゴハダニ及びナミハダニは、長沼町（無防除）、余市町A及びB（慣行防除）いずれの地点においても発生が認められなかった。

予察園におけるハダニ類成虫の発生状況

月・半旬	リンゴハダニ						ナミハダニ					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	0	0	0	0.4	0	0	0	2.3	0	0.6	0	0
2半旬	0	0	0	0	0	0	0	1.3	0	1.0	0	16.4
3半旬	0	0	-	0	-	0	0	1.0	-	0.3	-	1.0
4半旬	0	0	0	0	0	0	0	2.3	0	0.1	0	1.4
5半旬	0	0	0	0.2	0	0	0	2.0	0	1.4	0	0.4
6半旬	0	0	-	0	-	0	0	0.3	-	0	-	0.0
平年数	10		10		10		10		10		10	

注) 30葉あたりの寄生数。

注) 余市町A、Bの予察園は慣行防除。

5. キンモンホソガ 発生量 やや少

予察園におけるフェロモントラップによる成虫誘殺数は、余市町B（慣行防除）で平年並、長沼町（無防除）及び余市町A（慣行防除）では平年より少なかった。長沼町の予察園における被害葉率は平年より少なかった。

一般園におけるフェロモントラップ誘殺数は、岩見沢市及び七飯町で平年より多く、増毛町で平年並、石狩市及び壮瞥町で平年より少なかった。札幌市及び旭川市では誘殺が認められなかった。

予察園におけるキンモンホソガの被害葉率およびフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	フェロモントラップ誘殺数						被害葉率(%)	
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	63.3	50.3	9.0	80.1	102.7	60.5	5	17.6
2半旬	17.2	63.4	19.6	94.1	57.7	64.1	6.8	17.8
3半旬	1.5	42.5	83.6	92.4	68.6	70.9	5.8	22.2
4半旬	0	11.7	24.7	55.8	14.9	51.8	9.8	26.2
5半旬	0	4.6	8.9	28.8	1.4	30.3	16.3	29.6
6半旬	0	1.2	7.1	11.8	1.4	11.3	18	44.1
平年数	10		10		10		10	

注) 余市町A、Bの予察園は慣行防除。

一般園におけるキンモンホソガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		石狩市		壮瞥町		七飯町		旭川市		増毛町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
9月1半旬	31.6	3.5	0	3.2	19.6	37.2	4.3	38	115.3	1.5	0	0.8	562.5	304
2半旬	15.7	3.5	0	1.7	20.6	93.6	6.2	63	150.0	1.6	0	1.8	446.1	405
3半旬	6	5.5	0	1.3	13.4	61.6	7.5	60	175.7	2.3	0	0.5	271.4	350
4半旬	2.4	2.8	0	0.4	6.8	77.2	8	44	183.1	1.5	0	0.2	125	278
5半旬	0.7	1.1	0	0.1	5	30.9	0.6	11	157.5	0.8	0	0.1	81	126
6半旬	2	0	0	0.2	0.8	13.1	2.4	7	95.3	0.6	0	0	9	74
平年数	10		10		10		10		10		10		10	

農薬の適切な保管管理と空容器等の適正な処分に努めましょう!!

■ 農薬の保管管理等に当たって

農作業も終盤となり農薬を使用する機会も少なくなってきましたが、使い残した農薬は適切に保管管理するとともに、空容器等は適正に処分するようにしてください。

- 1 農薬は乾燥した冷暗所に保管箱又は保管庫を設置し、施錠して保管してください。
- 2 農薬の誤用を防止するため、種類別に分類整理して保管してください。特に除草剤は、誤って使用すると薬害等の被害を招く恐れがあるので、他の農薬と明確に区分してください。
- 3 毒物又は劇物に該当する農薬は、毒物及び劇物取締法により容器や包装、保管場所への表示等が定められていますので、これを遵守してください。
また、消防法に基づく危険物に該当する農薬は、貯蔵及び取扱いの基準が定められているので、これを守ってください。
- 4 誤飲等を防ぐため、農薬は他の容器への移し替えや小分け、特に食品容器への移し替えは行わないようにしてください。
- 5 使用済みの農薬の空容器は、他の用途には絶対に使わないでください。
また、農薬の空容器及び残農薬の処分に当たっては、関係法令に基づき適正な処分に努めてください。
なお、農薬の空容器の処分に当たっては、容器内に農薬が残らないよう十分に除去してください。

農薬に関してのお問い合わせは

道庁農政部生産振興局技術普及課 (TEL:011-231-4111(内線)27-838)

北海道病虫害防除所 (TEL:0123-89-2080)

または最寄りの(総合)振興局農務課にご照会ください。

登録情報や農薬取締法等については

農林水産省ホームページの「農薬コーナー」 (<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/>) をご覧ください。